

SHIRAKOBATO

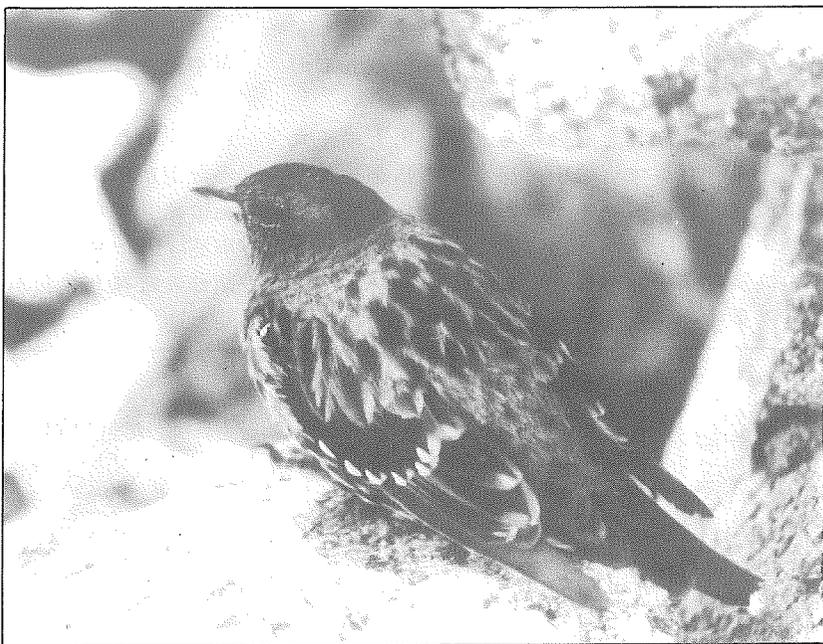
# しらこぼと



1987. 4

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



VOL. 35

日本野鳥の会 埼玉県支部

# マイフィールド

梅、桜、桃、菜の花畑、タンポポのじゅうたん……。そんな木や花にさそわれて、鳥も心が浮き浮きしているよう。私たちも出かけましょう。春の野へ。

## 大間土手、我が庭

榎本秀和  
(鴻巣市)

私の住まいは、鴻巣駅から北西へ15分ほど歩いた新興住宅地の一角にある。周辺にはわずかに耕地や雑木林が残っており、西へ1キロばかり歩いて大間土手を越えると、荒川の河川敷が広々と開けている。この、自宅から荒川に至る一帯こそ、我が庭とも言うべき私の野鳥観察のフィールドである。そして、このフィールドを家族そろって散策することが、私のこの上ない楽しみとなっている。

まずは自宅より住宅地の裏道をたどって大野神社へ向かう。道筋は小さな雑木林で、気をつけていると思わぬ野鳥に遭遇する。センダイムシクイやアオゲラに出会ったのもこの場所だ。ここは冬から春先がおもしろい。

大野神社の林を覗いたら、参道を下って大間土手を目指す。途中、田んぼの脇を通るが、田植えの頃にはカルガモが水にひたっていたりする。シラコバトが電線で羽を休めていたのは風の強い春の日だった。

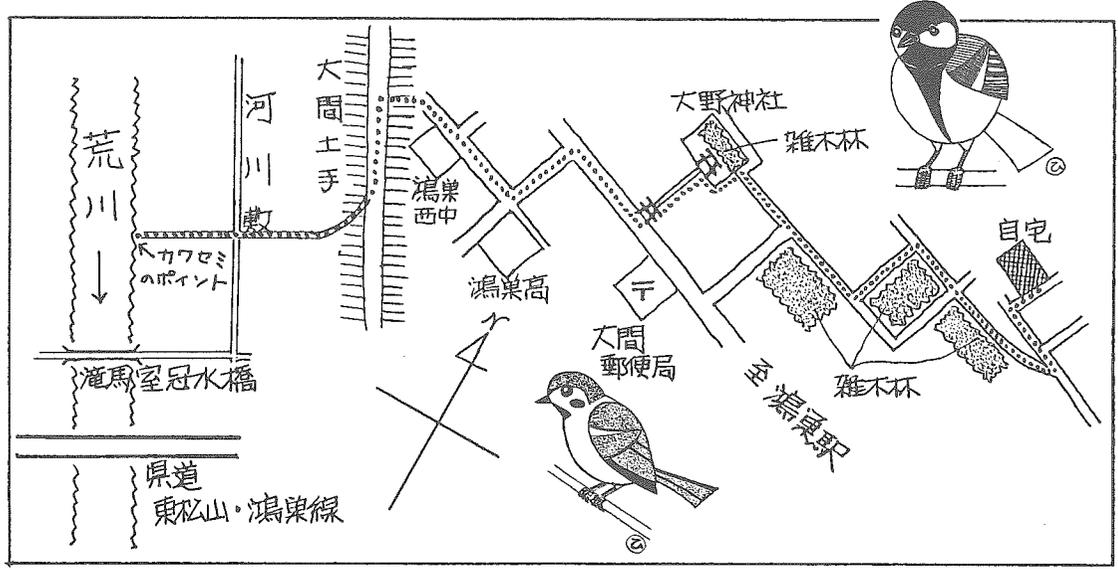
鴻巣西中学校裏から土手へ上がる。広い河

川敷の中で私がフィールドとしているのは、土手へ上がったあたりから滝馬室冠水橋に至る範囲で、娘の菜摘野(なつの)を遊ばせながら歩くにはちょうど良い距離である。

河川敷は耕地やアシ原になっていて、四季を問わず野鳥が多い。サギ類の優雅な姿。時折聞こえるキジの声。川岸に出ればカワセミ。春にはコムクドリが立ち寄り、夏にかけてはオオヨシキリとカッコウが姿を見せる。冬の枯れ野はカンラダカでにぎやかになり、時にはマガモなども飛来する。

こんな私のフィールド。野鳥に限らず、野草や昆虫、自然のもろもろが語りかけて来るマイフィールド。数々の思い出にあふれたかけがえのない場所だ。

野遊びに興ずる娘の姿に目をやりながら、私はふと、自然を通しての家族のふれあいを実感する。余談となるが、娘の名は万葉集冒頭の歌に拠り、私が名付けたものである。



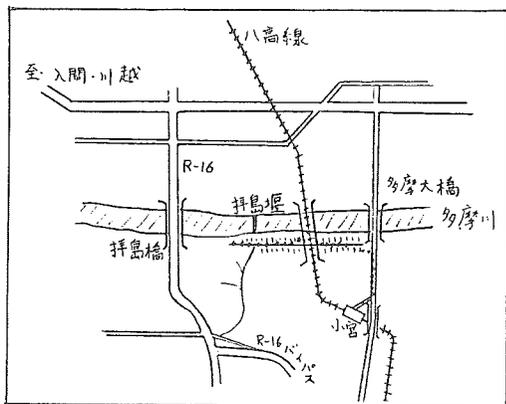
# カワセミのメッカ

登坂久雄  
(戸田市)

埼玉県内ではありませんが、ここは私の勤務先の近くの天気の良い出勤途中によく足を運ぶフィールドです。多摩川の流域は野鳥の豊富なことで知られていますが、中でもこの八高線鉄橋付近はピカイチです。このフィールドの自慢は何といってもカワセミがやたらと良く出てくることです。よほど運が悪くない限り、ここでカワセミが見られないということはまずないと思います。ここでカワセミを見つけるポイントは、拜島堰と八高線鉄橋の間の土手に立って耳を澄ますことです。するとあのチーッというカワセミの音が聞こえてくるはずですから、声のした方向をカワセミ、カワセミ、カワセミが見たあいと心に念じてよく捜すと、これであなたもカワセミとご対面となる寸法です。そのほかにも4月上旬なら堰の上流の広い水面にはコガモ、ハシビロガモなどが残っていますし、堰のすぐ下ではシギ・チドリがエサをさがしているでしょう。さらに5月になると鉄橋のすぐ下にササゴイが出没するようになります。そのほかにもまだまだ多くの種類の鳥達がこのフィールドでは見られ、私がここでの観察を始めてから2年の間に私ひとりでも70種以

上の鳥を記録しています。

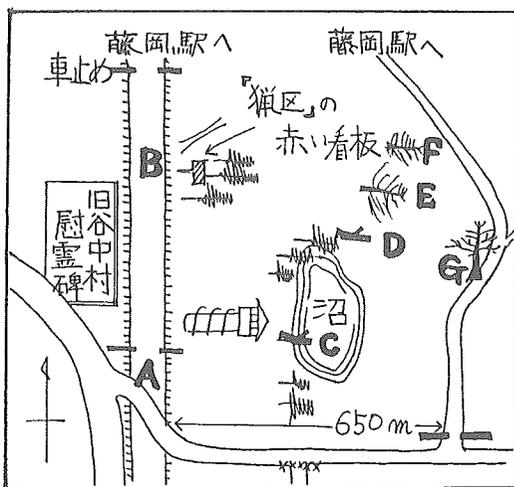
鳥があまりみつからないときには、土手にはえている草花に目をやるのもよいものです。4月ならカントウタンポポやスマレ、クサボケが、5～6月になるとノアザミ、タツナミソウ、ホタルブクロなどの花を見ることもできます。(実はここは種類のには冬鳥が多くて春～夏はあまり種類は多くない。もしかしたら12月ごろにできるかもしれない冬の多摩川八高線鉄橋付近に乞う御期待、目玉はミコアイサ。) 交通：国鉄八高線小宮駅下車徒歩。



# 渡良瀬遊水池西縁

山部直喜  
(越谷市)

- まず、④より沼周辺の立ち枯れの木を見る。
- ③にハイイロチュウヒ♀がよくいる。
- ②がベストポジション。①にチュウヒ、⑤、⑥あたりにコチュウゲンボウ♂♀数羽。
- ①②にふられたら、道沿いで一番の大木③(エノキ)より、北東の屋敷林の跡をさがす。
- ノスリ、チュウゲンボウ、トビは common。
- コミズク、オオタカ、ミサゴも OK。
- ミサゴ以外は冬がよい。運がよければ1日で猛禽類8種も可能。悪くとも2種は確実。しかし、粘りが大切なのははずこも同じ。
- ここでは、猛禽類以外の鳥を含む小動物は、全てそれらのエサである。エサは見ない。
- 交通 = 東武日光線藤岡駅より徒歩30分。



# 1987年ガン・カモ・ハクチョウ類調査報告 日本野鳥の会 埼玉県支部研究部

種名	調査地 荒川 (赤羽～ 羽根倉)	森林公園 (滑川)	荒川 (川本)	狭山湖 (所沢)	菫蒲公園 (久喜)	百穴湖 (吉見)	利根川 (阪東 大橋)	古利根川 (越谷)
マガン							×	
コハクチョウ			××				×	
オシドリ		×						
マガモ	××	××××		×××	××××	××××	×××	×
カルガモ	×××	××××		×××	××××	×××	×××	×××
コガモ	×××	××		×××	××××	×××	×××	×××
トモエガモ		×			×××	×		
ヨシガモ				×			×	××
オカヨシガモ							××	
ヒドリガモ	×××	×		×××	××	××	×××	×××
アメリカヒドリ								×
オナガガモ	×××	×××		×××	××××	××	×××	×××
ハシビロガモ	××	×			××	××	×××	
ホシハジロ	×××			××	×	××	×	
キンクロハジロ	××			×	××			
ホオジロガモ				×			×	
カワアイサ							××	

× 10羽未満    ×× 10羽以上100羽未満    ××× 100羽以上1000羽未満    ×××× 1000羽以上

1月15日、全国一斉にガン・カモ・ハクチョウ類のカウント調査が実施されました。

県内では、延べ61人の方に参加していただき、8ヶ所で調査が行われました。結果は表の通りです。

今年は、昨年より2種多く、マガン、アメリカヒドリが追加されました。特にマガン

(若鳥2羽)は、昨年の11月10日に阪東大橋で確認されて以来の長期に渡る滞在で、2月15日の探鳥会でも観察されており、20数年ぶりの越冬記録となりました。また久喜菫蒲公園では、昨年に続きトモエガモが200羽近く記録されました。調査員の皆様ごくろうさまでした。  
(執筆・藤原寛治)

## 日本産鳥図鑑使用考

小 荷 田 行 男

入手容易な鳥の図鑑は小林桂助著だけの15年前に比べれば現在は生物図鑑出版ブームとも言える。机上用と野外用、写真と絵、素人向けと専門家向け、世界図鑑からローカル図鑑などバラエティに富み、量が多くなれば質が云々されるのも世の常である。強いて書名は記さないが、入門用であるのにコメント無で亜種の写真を使用したり、写真の入違いなどまだ罪は軽いが、外国の図鑑を参照しなければ記述ミスを発見できない重罪も多い。幼

鳥をコメント無で掲載したり、識別点が不明確であったり枚挙に暇が無い。特にウミスズメ類などは要注意である。コンピュータのプログラムと同様、鳥の図鑑もミスだらけのものが公然と売られている。そこで対策。

- (1) 著者の異なる複数の図鑑で確認する。
- (2) 特に希少種の記述は参考程度に留め生息地域の国の図鑑で確認する。
- (3) 成鳥と幼鳥、夏羽と冬羽は全く異なる。要は「図鑑はうたがってかかれ」である。



||||||| 鳥帰る日が近づく |||

諸徳寺六十五 (大宮市)

庭の水盤に今朝(2/6)も鴨が水浴びをしてゐる。飛ばす水玉に春を感じる。雉鳩もよく浴びに来る。初午の夜降った雪が所どころに残って、万両の赤を尚も引立ててゐる。此の実は、鴨も偶に喰べているようだが、大好きではないようだ。給餌台に向日葵の種を置く。

暖さに誘はれ望遠鏡を担いで、近くの見沼田甫へ出てみたら、居た居た、芝川に浜鳴が50羽位居た。反転するときの羽音の大いこと……。そのときの煌めき……。

小鴨、田鳴、たかぶ鳴、田鳧、頭高、鷓も未だ居るが、畑焼く煙が野を覆ふようになった。鳥引く季節が来る。

||||||| トラフズク |||

浅沼源太郎 (大宮市)

「全く、いやになってくるなあ」

いったい、この場所に何回足を運んだことか。トラフズクがいるということで、何度も来て見たが、影さえ見えず。それも1羽だけでなく、3羽もいるという。Yさんは「あそこは、まず間違いなくトラフズクは見れるよ」と言う。それなのに…、ぼくはトラフズク君とは相性が悪いのだろうか。

まあ、ぼくとトラフズク君との相性の悪さの原因は、大体わかっている。それは、トラフズク君とライバル的存在であるコミミズク君との相性が、ぼくは良すぎるということだ。とにかく、ぼくはコミミズク君とは、大の仲良しなのである。両方に仲良しになるのは、虫の良すぎる話しなのかもしれない。

ぼくは迷うのです。コミミズク君との仲をへだてるようなことはしたくない。かと言って、トラフズク君との出会いを断念したくもない……。

||||||| カワラヒワの音譜 |||

山本美代子 (鴻巣市)

朝、主人を送り出すので玄関に出ると、見上げる電線に鳴き声が雀と異なる鳥が5、6羽。「バイバイ」もそこそこに2階にかけ上り双眼鏡をのぞくと、尾の近くの黄色が目立つ。

5筋の電線に、飛びはねている数は増えて16羽。音譜の様だ。ソミソミソソソソソミソミソ—、あっ、変曲した。ミミソソソソソ—、♀のそばに並びたい場所争いか？ 空中戦が有ったり、にぎやかにキルキルチル、騒いで見あきない。

山の寒気に追われて来たのか、こんなに沢山のカワラヒワを見たのは初めてでした。今も、どこからかジュイーンの声がヒヨドリの声と交差して聞えて来る。

餌台に好物のヒマワリの実を盛付けましょう。どうぞ、立寄って食事などして行って下さい。

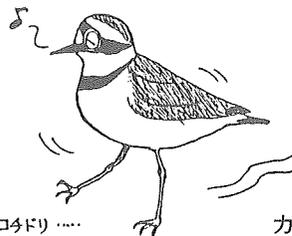
||||||| シジュウカラ巣箱作戦 |||

今井明巨 (熊谷市)

建設中の熊谷市中央公園でシジュウカラの小さな群を見て、巣箱作戦を思いついたのは昨年(2)月だった。市役所公園緑地課の御協力(10)個の巣箱を取付けたのが3月5日だった。

中央公園は熊谷市役所東側に位置し、遊具まである都市型の公園であり、緑も多いが、人の出入りも多いところであり、果して成功するかどうか心配であった。

5月11日、親鳥2羽に連れられて、給餌を受けながら公園の木の枝から枝へと移動していく8羽のヒナを見て、ほんとうによかったとうれしくなりました。



コチドリ……  
…わかしほさん。

カット・黒田佳子

# 野鳥情報

アオサギ ◇1月26日～28日、浦和市の芝川で1羽(大武昭雄)。  
オオハクチョウ ◇3月1日、狭山市の昭代橋下流の入間川で亜成鳥1羽(福井恒人)。  
アメリカヒドリ ◇1月31日、川越市霞ヶ関の川鶴団地東側の遊水池にも1羽(谷津弘子)。  
ミコアイサ ◇2月8日、熊谷市の荒川大橋上流でも3羽♀7羽(山口博)。  
キンクロハジロ ◇2月8日、熊谷市の荒川大橋上流で♀1羽。熊谷地区では、めったに見られない(山口博)。  
オオタカ ◇2月8日、熊谷市の荒川大橋上流でカモを狙い1羽(山口博)。  
ツミ ◇12月23日、鶴ヶ島町の高倉の林で1羽(宮内滋子)。  
ハイタカ ◇2月8日、北本市石戸宿の農事試験場跡地で1羽(榎本秀和)。  
ノスリ ◇1月31日、大宮市天沼町の大宮南中学校上空を1羽(浅沼源太郎)。  
ハヤブサ ◇2月1日、浦和市秋ヶ瀬のゴルフ場で1羽(佐藤晶人)。  
チョウゲンボウ ◇2月8日午前9時、大宮市の西遊馬公園付近でホバリングをしながら飛んで行った(大橋義男)。  
タマシギ ◇1月25日、秩父郡横瀬町で♀1羽(西田賢治)。  
ケリ ◇2月7日、大宮市の指扇中学校横の水田で3羽(森本國夫)。  
タゲリ ◇1月25日、横瀬町の水田で2羽(西田賢治)。◇2月22日、毛呂山町の「新しき村」の田圃で10羽(増尾節子)。  
ヤマシギ ◇2月7日、大宮市日進町で1羽(森本國夫)。  
アオゲラ ◇1月31日、鴻巣市大間の自宅近くの雑木林で♂1羽(榎本秀和)。  
アカゲラ ◇12月16日、鶴ヶ島町の高倉の林でも♀各1羽(宮内滋子)。◇3月1日、浦和市南部領辻の鷲神社で1羽(若林正徳)。  
ヒバリ ◇1月30日、浦和市の念仏橋付近で暖冬のせいか気の早いヒバリが1羽さえず

りながら朝の空に昇った(大武昭雄)。  
ツバメ ◇3月1日、狭山市の笹井ダム上空を8羽(福井 亘)。  
ミソサザイ ◇1月18日、鶴ヶ島町の高倉の林で2羽(宮内滋子)。  
ルリビタキ ◇1月24日、入間市上谷ヶ貫の西光寺で1羽(浅沼源太郎)。◇2月8日新座市の平林寺で♀1羽(探鳥会居残り組)。  
トラツグミ ◇12月31日、鶴ヶ島町の高倉の林で1羽(宮内滋子)。◇2月24日、新座市の平林寺で1羽。お尻をふるわせ、抱卵そっくりのスタイルで座りこみ、へんてこりんだった(草間和子)。◇3月1日、大宮市北袋の見沼斜面林で1羽(浅沼源太郎)。  
アカハラ ◇1月24日、飯能市宮沢の林で1羽(浅沼源太郎)。  
シロハラ ◇2月1日、鶴ヶ島町の高倉の林でも1羽(宮内滋子)。  
ウグイス ◇2月15日午前10時、浦和市の国昌寺付近でさえずる(山部直喜)。◇2月25日午前7時、白岡町小久喜の自宅の庭でさえずる(浅田徳次)。◇2月27日午前6時50分、蓮田市椿山でさえずる(小林恒雄)。  
ヒガラ ◇3月1日、浦和市の中尾神社でさえずる(草間和子)。  
ミヤマホオジロ ◇2月1日、狭山市の智光山公園で♂♀各2羽(鈴木暁子)。◇3月1日、同地で♂2羽(手塚正義)。  
アトリ ◇1月18日、鶴ヶ島町の高倉の林で21羽(宮内滋子)。  
ベニマシコ ◇1月25日、吉田町でも♀各1羽(丸山政弘)。  
ウソ ◇1月25日、秩父市の羊山公園でも♀各2羽(山岸昭治)。



ミヤマホオジロ

撮影・宮内滋子

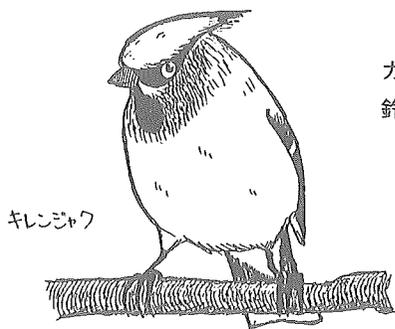
# 4月の見どころ

編集部では、今月号より紙面の許す限り、その月の“見どころ”を予想してみたいと思います。参考にしてください。

4月は冬鳥、夏鳥、旅鳥が一度に見られるぜい沢な月です。迷鳥も見られればいうことなし。さて、その中でいくつか注目したい野鳥をあげてみましょう。

レンジャク類は多くの人の瞳れの鳥の一つだと思います。それが秋ヶ瀬のピクニックの森で見られるかもしれません。去年、一昨年と訪れてますので今年も期待できると思います。4月5日(日)には、その秋ヶ瀬で探鳥会も予定されております。是非おいで下さい。

次はノビタキに御注目下さい。秋の渡りのノビタキは有名ですが、春にも渡ります。県内でも何回か観察されてますが、秋よりはずっと少ないようです。春の渡りの時は秋と違い、♂はきれいな夏羽になりかかっているも



カット  
鈴木加代子

のが多いですから、田圃や畑、草地など注意してみてください。黒覆面のかわいい小鳥がいるかもしれません。

また、冬鳥のツグミ、カシラダカやアオジも繁殖地へ向う前にさえずりの練習をしていることがあります。林を歩いていて、きれいな声が聞えてきたら、その声の主注目して下さい。意外な鳥の歌を聞くことができるかもしれません。ちなみにツグミの声は複雑で美しい声(海老原氏談)。カシラダカはヒバリに似た美しい声です。

## 『しらこぼと』袋づめの会

5月号の袋詰めの会は、4月25日(土)午後1時~3時ごろまで、浦和市立コミュニティセンター2階第2講座室(浦和駅西口から県庁通り西進、中山道左折約600m右折、徒歩約8分)。

今回もわいわいがやがや、よろしく。

## 写真クラブ定例会

同日、同じ場所で午後3時ごろから5時まで、野鳥写真クラブの定例会。どなたでも参加自由。力作、ケツ作、たくさんのスライド

▶大学の学生ホールにスズメが来ます。(千代田区むす。) 大学の学生ホールにスズメが来ます。(千代田区むす。)

私の家の方は田舎なので、スズメは人間の近くには決して来ません。お皿のふちに乗って残飯をつつく姿はかわいいけれど、窓をあけたとたんにはと飛び立ってしまう近所のスズメの方に、親しむ感じます。都会のスズメも、大変なだけとね。エサもないもんね。と、ちのスズメにも、がんばって生きろいひです。



をお待ちしています。

〔表紙の写真〕

## イワヒバリ(イワヒバリ科)

飛騨の高山の友人の病氣見舞いに行った帰りに、昔登ったジャンダルムが見たくなり、西穂高ロープウェイを使って西穂高に登った時の1枚です。200mmの望遠レンズを使い1.5メートル程度の至近距離で撮影しました。

高山の鳥ばかりでなく、身近にいる平地の鳥たちも、このイワヒバリの様に、標準レンズを使って撮影ができる日が来れば良いと、私は願っています。

(写真と文・金井祐二)



### 浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：4月5日(日)  
 集合：午前9時 浦和駅西口バスロータリー  
 解散：午後1時ごろ  
 担当：福井・森本・大橋・海老原  
 見どころ：冬の小鳥の最後のクライマックス(？)。冬の間根暗だったアオジが梢で囀り、カンラダカの頭も真っ黒。これでレンジャクが予定通り出れば……。

### 熊谷市・大麻生探鳥会

期日：4月12日(日)  
 集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前  
 交通：秩父鉄道熊谷9：04発→大麻生9：12着／秩父鉄道寄居9：01発→大麻生9：19着  
 解散：午後1時ごろ  
 担当：鈴木・今井・榎本・岡安  
 見どころ：冬鳥と夏鳥の引き継ぎ式(Ⅰ)。渡ってきたコアジサスが河原を飛び交います。帰り仕度の冬鳥の歌も聞こえるかも。一年中いるカワセミは？

### 浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：4月19日(日)  
 集合：午前8時15分 北浦和駅東口。または午前9時 浦和市立郷土博物館前  
 解散：午後1時ごろ  
 共催：浦和市立郷土博物館(参加費無料)  
 担当：楠見邦博・福井恒人・渡辺周治

渡去を前に明るく美しく変身した冬鳥達。山の夏鳥の平野部への立ち寄り。そんな4月ならではの魅力を求めて、今月も探鳥会へどうぞ。

持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、双眼鏡(もしあれば)などです。

参加費は、一般=100円、会員及び中学生以下=50円。予約申込みは必要ありません。小雨決行です。

夢中になり過ぎて、鳥を驚かしたり、植物を荒らしたりしないように。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

見どころ：冬鳥と夏鳥の引き継ぎ式(Ⅱ)。

黒頭巾でしっかり旅仕度のユリカモメ。林にはどんな夏鳥が来ているのかな。

### 北本市・石戸宿探鳥会

期日：4月26日(日)  
 集合：午前9時 北本駅西口。または午前9時30分石戸宿の子供公園駐車場  
 交通：高崎線浦和8：26発→北本8：51着／高崎線熊谷8：24発→北本8：43着  
 解散：午後1時ごろ  
 担当：榎本・岡安・乗田・森本  
 見どころ：華麗な夏鳥の到着(Ⅰ)。南の国で冬を越したオオルリやキビタキが、山へ行く前に羽を休めていきます。空を見上げればサンバにごあいさつも。

### 寄居町・鐘撞堂山探鳥会

期日：5月3日(祝)  
 集合：午前9時 寄居駅北口  
 交通：東武東上線川越7：38発→森林公園乗継ぎ→寄居8：45着／秩父鉄道熊谷8：30発→寄居8：58着  
 解散：午後2時ごろ  
 担当：萩原正二  
 見どころ：華麗な夏鳥の到着(Ⅱ)。新緑の



山道をたどりながら、旅の途中の夏鳥を探します。例年キビタキやムシクイ類のにぎやかなコーラスが聞けます。

## 栃木県・箒川探鳥会

期日：5月9日(土)

集合：午前6時20分 大宮駅中央改札口前

交通：東北本線大宮6：35発→野崎8：37着  
／ 新特急なすの1号大宮7：17発→  
矢板8：42着、乗継ぎ8：50発→野崎  
8：55着 (片道1,800円、特急料金  
片道1,300円)

解散：現地にて午後2時ごろ

担当：中島康夫、楠見邦博、草間和子

見どころ：子育てに大忙しのチョウゲンボウ  
団地。岩穴に数つがい営巢中。驚か  
さないように静かに訪問しましょう。



探鳥会へ  
どうぞ!!

## 奥日光・一泊探鳥会

期日：6月13日(土)～14日(日)

宿泊：奥日光光徳ロッジ

費用：約13,000円(宿泊費、交通費—電車  
利用—共)

定員：30名(先着順)

申し込み：各探鳥会で受け付けます。電話で  
の申し込みは、(中  
島康夫)まで。メ切は5月15日。

見どころ：山と高原の夏鳥の勢ぞろい。うら  
うらしい梅雨どき、でもここ野鳥の楽  
園は、一年中で一番美しい季節。林で  
はキビタキやムックイ類が目の前を飛  
び交い、草原ではノビタキ、ホオアカ  
の大合唱。負けじとオオジシギもディ  
スプレイをくり返します。亜高山の花  
も見ごろ。ぜひ奮って御参加下さい。

(見出しイラスト=鈴木加代子。カット=タ  
カのひなは鈴木高士、他は鈴木加代子。)

## ＝宛名ラベル見直すと＝

会員制度が新しくなって、今まで支部だけ  
の会員だった方も本部の会員として登録され、  
『しらこぼと』をお送りする宛名ラベルもコ  
ンピューターで打出される様になりました。  
ジュニア会員と無料ご寄贈の分は今まで通り  
手書きの宛名ラベルですが、その他はすべて  
2月号送付の分から新しくなっています。ち  
よっと見直してください。

81-003319(86/10-87/09)01

こんな数字が名前の下にならんでいます。  
最初の「81」は、あなたが1981年に入会し  
た事を表わしています。次の「003319」  
という6桁の数字は、あなたの会員番号です。  
本部への連絡などにはこの番号も書いてい  
だくと、大変わかりやすくなります。

「(86/10-87/09)」とあるのは、会  
費の有効期間です。あなたが次に会費を納付  
するのは、1987年9月です。ええと、今度  
会費を払うのはいつだったかな、という時は、

宛名ラベルを見ていただければ、すぐわかり  
ます。便利ペリです。

最後の「01」は会員の種別で、正会員である  
事を表わしています。

01は正会員、02は準会員、03は普通会員、  
10は特別会員、09は名誉会員です。

家族会員はどうなっているか、ですって。  
すみません。今までは家族会員も連名の宛名  
でしたが、今度は家族会員の名前はラベルに  
は出なくなってしまいました。もちろん、会  
員としてきちんと登録されている事はまちが  
いありませんのでご安心ください。

ラベル紙の右下隅に1人だけ離れてポツ  
とある「1」とか「2」。お前はなんだと聞  
いたら、『野鳥』誌または会員証を袋詰めす  
る時に何通入れるかという目安にすぎませ  
んから気にしないでくださいと小さくなって  
いますので、これは無視しましょう。

わかりましたかあ。(総務部)



## 2月1日(日) 蓮田市 黒浜沼

人 46人 天気 晴 鳥 カイツブリ  
 コサギ カルガモ コガモ オナガガモ ノ  
 スリ チョウゲンボウ バン イカルチドリ  
 タゲリ タシギ キジバト コゲラ ハクセ  
 キレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ  
 モズ ルリビタキ アカハラ ツグミ  
 ウグイス キクイタダキ ヒガラ シジュウ  
 カラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオ  
 ジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ム  
 クドリ カケス ハシボソガラス ハシブト  
 ガラス(36種)ウソが出るという話を聞きつ  
 けて参加した人は、ウッソーと言ったとか。  
 でも、下見のときはカップルで現われたん  
 ですよ、ホントに。その代わりと言う訳でも  
 ないけど、ルリビタキが1m位の(と言う話  
 がある位近い)距離からじっくり見られた  
 そうで、結構でした。僕も参加すれば良  
 かったナ。

## 2月8日(日) 滑川町 森林公園

人 29人 天気 晴 鳥 カイツブリ  
 オンドリ マガモ カルガモ コガモ ヨシ  
 ガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガ  
 ガモ ハシビロガモ キジバト コゲラ ビ  
 ンズイ ヒヨドリ アカハラ ツグミ ヒガ  
 ラ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワ  
 ラヒワ スズメ カケス ハシボソガラ  
 ス ハシブトガラス(25種)3月下旬な  
 みの気温のため、森の鳥はどこかに  
 散歩にいったのか少なかった。団体  
 割引にならなかつたくやしさを、  
 オンドリの飛行とオオヨシガモを  
 見て解消。カモは全部で9種を  
 確認した。

## 2月8日(日) 新座市 平林寺

人 43人 天気 晴 鳥 キジバト  
 アオゲラ コゲラ キセキレイ ヒヨドリ  
 ツグミ ウグイス キクイタダキ コガ  
 ラ ヒガラ シジュウカラ メジロ カ  
 ワラヒワ イカル シメ スズメ ムク  
 ドリ カケス オナガ ハシボソガラ  
 ス ハシブトガラス(21種)この冬  
 の変な気候のせいかな、なんだ  
 か鳥が少なかったが、それでも穏  
 やかな日よ

りのもとでカラ類の混群やアオゲラ  
 などを楽しむことができた。

## 2月11日(水、祝) 大宮市 高木地区

人 28人 天気 晴 鳥 コサギ  
 マガモ カルガモ コガモ ハシビロガ  
 モ キンクロハジロ オオタカ キジ  
 クイナ ケリ タゲリ タシギ キジバ  
 ト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハク  
 セキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ  
 モズ ジョウビタキ ツグミ ウグ  
 イス ヒガラ シジュウカラ ホオジ  
 ロ カシラダカ アオジ オオジュリ  
 ン カワラヒワ シメ スズメ ムク  
 ドリ カケス オナガ ハシボソガラ  
 ス ハシブトガラス(37種)あつ  
 いあついと次々に上着をぬいで手  
 持ったり腰にまいたり。チョウが  
 飛び、オオイヌノフグリも咲いて、  
 春。オオタカ、タゲリにケリも  
 ちらっと。鳥もじゅうぶん楽しんで、  
 日に焼けてしまった1日だった。

## 2月15日(日) 浦和市 三室地区

人 58人 天気 曇 鳥 コサギ  
 カルガモ コガモ オナガガモ コチ  
 ドリ イカルチドリ ハマシギ クサ  
 シギ タカブシギ イソシギ タシギ  
 ユリカモメ セグロカモメ シラコ  
 バト キジバト カワセミ コゲラ  
 ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ  
 セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ  
 モズ ジョウビタキ ツグミ ウグ  
 イス シジュウカラ メジロ ホオジ  
 ロ カシラダカ アオジ カワラヒ  
 ワ シメ スズメ ムクドリ カケス  
 オナガ ハシボソガラス ハシブト  
 ガラス(40種)三室では最高記録  
 の鳥種が出た。雑木林、畑、川と、  
 環境が変化に富んでいるのが三室  
 の鳥の多さにつながっている。特  
 に芝川の存在は大きく、あのとて  
 もきれいとは言えない川に依存し  
 ている鳥は、10数種にもなる。鳥  
 だってもう少しきれいな所に居  
 たいかも知れないのだが、自然環  
 境の変化でなかなか行く所もない  
 のだろう。

## 2月15日(日) 本庄市 阪東大橋

人 22人 天気 晴 鳥 カイツブリ  
 ダイサギ コサギ アオサギ コハク  
 チョウ マガモ カルガモ コガモ  
 ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガ  
 モ オナガガモ ハシビロガモ ホシ  
 ハジロ ホオジロガモ

カワアイサ トビ ノスリ クイナ タゲリ  
タンギ キジバト カワセミ ヒバリ ハク  
セキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨ  
ドリ ツグミ ホオジロ カシラダカ アオ  
ジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズ  
メ ムクドリ ハンボンガラス ハンブトガ  
ラス(40種)ヒバリの囀りを聞きながら河原  
に出るとカモ、カモ……。その中に、よく潜  
るホオジロガモの♀、さらに、ボサボサ頭の  
カワアイサの♀と背中 of 白さの目立つ♂も。

今年はマガンも2羽飛来しているのだが……。あきらめて戻りかけたとき、カモが一斉に飛び立ち、その中にひときわ大きい2羽の姿、マガンだ！ぐんぐん近づいてきて、バッチリ。そして、クライマックスはコハクチョウ。草をはむ姿を間近にながめながら、幹事の萩原さんが腕をふるったナベで冷えた体を暖めた。鳥合わせ後、おまけでコミミズクとチョウゲンボウが上空を舞い、河原にはアメリカヒドリ姿も。最高の1日。

## 参加者の声

(大宮市高木地区)

### からだコチコチ初リーダー

乗田 実(上尾市)

2月11日、高木地区探鳥会は快晴にめぐまれ、カモ類から始まって、埼玉では珍しいケリがタゲリと一緒に飛んでいるところを見ることができました。

コースも終わりに近づくころ、オオタカの出現に探鳥会は一段と盛り上がり、参加者全員満足のようでした。

高木地区もところどころ開発の手が加えられているものの、雑木林、アソ原、耕作され

ていない水田にも鳥がいる。タンギ、コサギ、タゲリ、ケリなどがある。自然は生きています。カモのいる水溜りは市のゴミ焼却灰の処理場になってしまう。一部の開発はやむをえないのです。

ちいさな場所でも、そこにはたくさんの動植物が生きています。そんな自然を一層大切にしたいと思います。

この日は不慣れな担当で、からだコチになっていました。先輩リーダーに援助してもらい、参加者の協力も得て、楽しくすばらしい探鳥会ができました。これからも人々との和を大切にしていきたいです。ありがとうございました。

(本庄市阪東大橋)

### ふり向けばクライマックス

海老原 教子(浦和市)

「さあ、ではこの辺でそろそろ戻ってみましょう」とリーダーの声。

「マガンだ！」と誰かの叫ぶ声が耳に届いて、私は反射的にふり向いた。乱れ飛ぶカモたちの群れの中から、一きわ大きな2羽が高く左に飛んでいる。双眼鏡が追いかける。追いかける。彼らは、私達の右手遠方から突然現われ、利根川の上を飛び、大きく楕円を描いて、私達に迫ってきた。「来た！」のだ。

今日のリーダー北川さんから、去年の秋頃阪東大橋にマガンの幼鳥が2羽来ているという知らせをうけてから、今日この日までの私

の思いが一時に成就したのである。ありがとうと絶叫したい心境であった。

「鳥合わせをする場所あたりに白鳥が出迎えてくれることになっています」というリーダーの作戦通りの結果。萩原リーダーの秘められた名料理人の腕を余すところなく見せたイモ煮、彼が時間にあわせて漬けておいたというお漬物、そして朝自宅の庭からもぎってきたという「朝もぎはっさく」のデザートが私達の気分を更に、プラス、プラス、プラス。

解散直後、まだ日も高い午後1時半だというのにコミミズクがすぐそばに2羽のちょっかいガラスにたたき起こされて飛びまわり、それを見ていたら、チョウゲンボウが目の前を飛んでゆくのであった。

阪東大橋、利根川万歳。

## 連絡帳

これがあの『しらこぼと』!!

おどろきましたか。イメージ新『しらこぼと』。これが、あの『しらこぼと』なのです。

いつもの『しらこぼと』が来ないんですけど、なんて、事務局に電話をかけないでください。

新しい表紙のデザインは、大好評の支部エンブレムのデザインも担当した鷹尾正済さんです。本人の自画像 = 右 = をごらんください。



### 埼玉県野鳥生態写真コンクール募集中

締切り6月30日。くわしくは埼玉県環境部自然保護課鳥獣保護係(☎ 0488-24-2111 内線2424)までお問い合わせを。

### ほんの蛇足ですが

2月号7ページの「同姓の2人」は、鈴木加代子さんと鈴木忠雄副支部長です。

3月号2ページの「サンズイドリ」とは、「イ+西=酒」の事とか。

2月号8ページで、なぜ顔写真をのせないのかですって。きまっているじゃありませんか。見るに耐えないからですよ。

### 会員数は

3月20日現在675人です。

## 活動報告

2月15日 編集部会議。

2月16日 ガンカモ調査票と集計表本部へ送付(研究部)。

同日 足利銀行浦和支店ロビー写真パネル展打合せ(海老原)

2月21日 役員会議(関東ブロック会議、バードソン、4月5月の行事、その他)

2月21、22日 役員・リーダー懇親会(茨城県にて)

2月28日 『しらこぼと』3月号袋詰めのお会(参加者=浅沼源太郎、石井智、榎本秀和、海老原教子、北川慎一、草間和子、楠見文子、古清水一水、小林芳江、手塚正義、福井亘、宮内武昭、森本國夫、山本節子、吉田二三子、以上15名)。3月2日発送。

2月28日、3月1日 全国評議員会、支部代表者会議へ出席(海老原美夫、山部直喜、小荷田行男)。

3月1日 狭山市立中央児童館野鳥観察会指導(福井恒人、福井亘、海老原美夫、海老原教子、手塚正義)。

3月2日 足利銀行浦和支店パネル展、展示作業(草間和子、海老原美夫、海老原教子)。

4月初めごろまで展示の予定。



澗沼と大洗へ行って来ました。そして、オジロワンがよくとまるという枝、シノリガモが先日までいたという磯、ウミスズメが泳いでいたという海を見て来ました…フン。(山)

題字『しらこぼと』：日本野鳥の会会長・山下静一

(イラスト風見出し・鷹尾正済)

『しらこぼと』 1987年4月号(通巻第35号) 頒価100円(会費に含まれます)  
発行人 今井昌彦 発行所 日本野鳥の会埼玉県支部

発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

電話 0488(32)4062

郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990

印刷所 望月印刷株式会社

(無断転載を禁じます)